

2026年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：財務会計論特論		専修：経営専修
担当教員名：金子 輝雄		科目区分：基幹科目
<p>授業科目概要：</p> <p>法人に対する記帳の義務化により、もはや青色申告制度は不要であるという議論や、帳簿記録に基づかない課税処分が散見されるなど、会計帳簿を単なる記録としてしか位置付けていない傾向になりつつある。申告納税制度は納税者の主体的な行為を前提とし成り立つ制度である。法人の場合、それは経営者の視点で諸事象を記号化（仕訳）した会計記録を基礎とするものである。本講義では会計記録の意味を改めて考えてみることにする。</p>		
<p>履修上の留意事項：</p> <p>ある程度高度な簿記と財務会計の知識を修得していることを前提とする。</p>		
教科書・参考書（参考文献）		
<p>書名：会計理論の探求</p> <p>著者／編者：杉本典之</p> <p>出版社：同文館出版</p> <p>出版年：1991年</p>	<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>	
<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>	<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>	
<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>	<p>書名：</p> <p>著者／編者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年：</p>	
ディプロマ・ポリシー（DP）との関係		
DP1	DP2	DP3
○	○	○
<p>到達目標：</p> <p>企業会計の本源的な理解。</p>		
<p>評価方法及び評価基準：課題への取り組みと討論の状況により判断する。 60点未満をF、60～69点をC、70～79点をB、80点以上をAとし、C以上の評価に単位を与える。 <各評価の基準> A評価：授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること B評価：授業内容の理解に基づいて、より広いケースにその理解を応用できること C評価：授業内容について、概ね理解していること</p>		
<p>授業の方法：</p> <p>テキストの輪読と討論。</p>		

第1回	テーマ：オリエンテーションと序章 内 容： 教科書／参考書 序章
第2回	テーマ：記号システムとしての企業会計 内 容： 教科書／参考書 1章
第3回	テーマ：企業会計の基本的構造と接近法 内 容： 教科書／参考書 2章
第4回	テーマ：会計測定の対象と認識・表現方法 内 容： 教科書／参考書 3章
第5回	テーマ：会期帳簿と決算財務諸表との関係 内 容： 教科書／参考書 4章
第6回	テーマ：決算財務諸表の作成方法と開示制度 内 容： 教科書／参考書 5章
第7回	テーマ：利潤計算の位置づけと分析視角 内 容： 教科書／参考書 6章
第8回	テーマ：損益取引と利潤概念 内 容： 教科書／参考書 7章
第9回	テーマ：販売取引の測定方法 内 容： 教科書／参考書 8章
第10回	テーマ：期間損益の算定方法 内 容： 教科書／参考書 9章
第11回	テーマ：損益取引の認識基準 内 容： 教科書／参考書 10章
第12回	テーマ：損益取引の測定基準 内 容： 教科書／参考書 11章
第13回	テーマ：損益計算書の基本構造 内 容： 教科書／参考書 12章
第14回	テーマ：引当経理と繰延経理の位置づけ 内 容： 教科書／参考書 13章
第15回	テーマ：企業会計原則上の引当金制度 内 容： 教科書／参考書 15章